

# 委員会調査(研修)報告書

NO.

令和 6年 6月 4日

胎内市議会議長

小野 徳重 様

(報告者) まちづくり常任委員会

委員長 坂上 清一

まちづくり常任委員会閉会中所管事務調査 について、  
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 令和 6年 4月 16日 至 令和 6年 4月 16日 14時20分~15時50分 15時55分~16時25分 16時30分~17時00分	調査・研修 場 所	黒川フルーツパーク・胎内高原ワイナリー 新潟フルーツパーク・胎内高原ビール園 ロイヤル胎内パークホテルプール跡
調査・研修 事 項	ワイン製造について ----- 胎内高原ビールについて ----- グランピング施設について		
調査・研修 出席者(参加者)	まちづくり常任委員会(9名) ----- 委員長 坂上清一、副委員長 森本将司、委員 渡辺宏行、天木義人 ----- 渡辺栄六、羽田野孝子、坂上隆夫、笈智也、増子達也 ----- 議長 小野徳重		
相手方(対応者)	黒川フルーツパーク・胎内高原ワイナリー 佐藤農林水産課長 ----- 新潟フルーツパーク 榎本富夫 胎内高原ビール園 浅野重幸(代表取締役) ----- グランピング施設 増子商工観光課長		

調査の結果または概要

○新潟フルーツパーク・胎内高原ワイナリー

ここ数年は、木の病気により生産量が減っていたが、現在は約 17,000 本のワイン用葡萄を栽培している。ワインの販売本数もここ数年増えており、令和 4 年度で 1 万 747 本売れている。昨年からは地域おこし協力隊からもワイン製造を担ってもらっている。

○胎内高原ビール園

現在は、山の駅として醸造施設と自社製品を販売している。新型コロナによりそれまでの売上げの 7 割を占めていた生ビールが 3 割まで低下し、代わりに瓶の売上げが逆転したということであった。それにより 30 代から 40 代の女性へ購買層の変化が見られ、今後の販売強化のためにも昨年 10 月にはラベルの一新を行った。

○グランピング施設

ロイヤル胎内パークホテルのプール跡地に、コンテナを 2 基設置し、12 月から稼働する予定となっている。

調査の所見・感想

○新潟フルーツパーク・胎内高原ワイナリー

販売本数が増えており、価格の見直しを行い単価が上がることで今後は収益性にも期待が持てる。2023 年には日本ワインコンクールで数年ぶりに銀賞を受賞しており、継続してコンクール入賞ワインを輩出できればブランディングになると考える。

○胎内高原ビール園

1 キロ釜など、マイクロブルワリーが多くを占める地ビールの生産者においても施設として恵まれているが、設備の老朽化によりだましましの部分が多くあるとの事だった。機械の故障が生産量に直結するため、設備面に心配が残る。

○グランピング施設

稼働開始が今年の 12 月であり、新型コロナの 5 類移行によりキャンプブームが下火の中で利用に繋げるためには、広報に力を入れ、訴求力を持たせなければならないと考える。